

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成25年7月10日
【四半期会計期間】	第46期第1四半期（自平成25年3月1日至平成25年5月31日）
【会社名】	株式会社柿安本店
【英訳名】	Kakiyasu Honten Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 赤塚 保正
【本店の所在の場所】	三重県桑名市吉之丸8番地
【電話番号】	(0594)23-5500(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役 赤塚 義弘
【最寄りの連絡場所】	三重県桑名市吉之丸8番地
【電話番号】	(0594)23-5500(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役 赤塚 義弘
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第45期 第1四半期連結 累計期間	第46期 第1四半期連結 累計期間	第45期
会計期間	自平成24年 3月1日 至平成24年 5月31日	自平成25年 3月1日 至平成25年 5月31日	自平成24年 3月1日 至平成25年 2月28日
売上高(千円)	9,983,049	9,850,530	42,684,999
経常利益(千円)	559,751	497,873	2,677,283
四半期(当期)純利益(千円)	290,379	259,705	1,309,222
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	273,585	272,177	1,322,622
純資産額(千円)	12,084,754	12,970,213	13,133,762
総資産額(千円)	17,993,155	18,464,382	18,047,434
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	23.33	20.86	105.18
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	67.2	70.2	72.8

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間における、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容の変更と主要な関係会社の異動は、概ね次のとおりであります。

< 精肉事業 >

主な事業内容及び主要な関係会社の異動はありません。

< 惣菜事業 >

主な事業内容及び主要な関係会社の異動はありません。

< 食品事業 >

主な事業内容及び主要な関係会社の異動はありません。

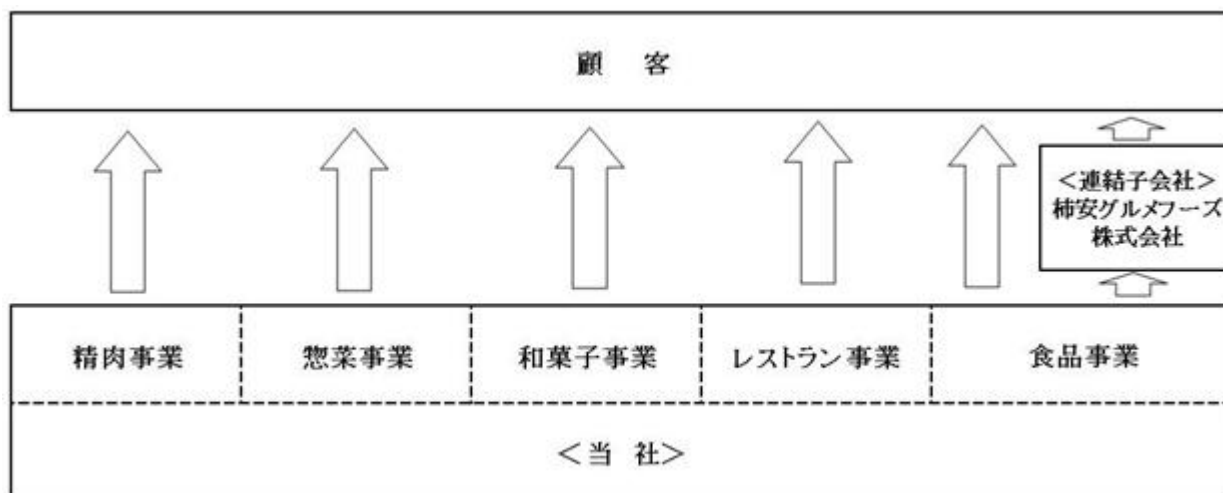
< 和菓子事業 >

柿安グルメフーズ株式会社における和菓子事業は、吸収分割により平成25年3月1日より、当社の直営といたしております。

< レストラン事業 >

主な事業内容及び主要な関係会社の異動はありません。

これによる、平成25年3月1日以降の事業の系統図は次のとおりであります。



第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクに重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において、当社グループが判断したものであります。

(1)業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新政権による経済・金融政策への期待感から、円高の是正や株価上昇など景況感に改善の兆しが見られたものの、海外経済の減速が懸念されるなど先行き不透明な状況で推移いたしました。

食関連業界におきましても、消費者の雇用・所得環境に顕著な改善が見られない中、急激な円安や政策に伴う物価上昇も予想されるなど、個人消費の改善には至らず依然として厳しいものとなりました。

このような環境の中、当社グループは、新商品の開発と売上構成上位の主力定番商品をさらにおいしく磨き上げることによる商品の魅力向上に努めてまいりました。

出退店につきましては、「口福堂」の拡大を加速させ、関東・中部・関西の既出店エリアを中心に9店を出店し、ドミナント強化を図るとともに主要百貨店への精肉・惣菜店舗の出店も着実に進め、計12店を出店し2店を閉鎖いたしました。

また、東武百貨店宇都宮店内の3店（精肉1店、惣菜2店）の全面改装を行いました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は9,850,530千円(前年同期比1.3%減)、営業利益は495,381千円(同11.3%減)、経常利益は497,873千円(同11.1%減)、四半期純利益は259,705千円(同10.6%減)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(a) 精肉事業

主力定番商品の黒毛和牛小間切れを『黒毛和牛こだわり小間切れ』に全面刷新を行うとともに、黒毛和牛とあぐ~豚による冷しゃぶ向け食べ比べセットやよりどりセールの実施により、商品力強化を図りました。

また、そごう大宮精肉店を出店しました。

この結果、当事業の売上高は3,450,905千円(前年同期比0.6%減)、セグメント利益は256,704千円(同14.1%増)となりました。

(b) 惣菜事業

「もっとおいしく」をキャッチフレーズに店内厨房での切り立てにより、風味を向上させた『切り立てロースハムのマカロニサラダ』や『松阪牛入り黒酢肉だんご』をはじめサラダ類、弁当類、パック商品群の定番商品の刷新とともに『春爛漫お花見弁当』、『初夏の彩り弁当』など季節ごとの新商品投入により商品の強化を図りました。

また、東急百貨店東横店への柿安牛めし店舗及び松坂屋名古屋店への柿安ダイニング店舗出店により、主要百貨店への展開を進めました。

この結果、当事業の売上高は3,025,526千円(前年同期比2.9%減)、セグメント利益は261,557千円(同40.6%減)となりました。

(c) 食品事業

伝統のしぐれ煮の製造技術を活かし、一方でこれまでにない新たな食の提案として素麺や冷製パスタにソース感覚で使って頂ける「冷やしトマト牛肉しぐれ煮」などの開発を進めるとともに、中元向け戦略商品としての先行試食販売を実施しました。

また、母の日などの個々のパーソナルギフト需要へ専用商品、特別パッケージ商品の投入による強化を行って参りました。

この結果、当事業の売上高は405,368千円(前年同期比4.4%減)、セグメント損失は23,939千円(前年同期は40,004千円のセグメント損失)となりました。

(d) 和菓子事業

ひなまつりや花見、端午の節句など3月から5月の大きな和菓子の需要に対して、新商品投入を積極的に行うとともに「料亭本店 本わらび餅」増量セールや「どら焼」3個セット販売により、定番商品の拡販を図りました。

また、ゴールデンウィーク明けからは水まんじゅうに甘夏味、いちごミルク味を加え3色展開に拡充するとともに、水ようかん、冷やしカップデザート類など涼菓への大幅な商品入替により夏の季節への早期の切り替えを行いました。

この結果、当事業の売上高は1,320,974千円(前年同期比15.6%増)、セグメント利益は142,073千円(同39.5%増)となりました。

(e) レストラン事業

「柿安」部門(しゃぶしゃぶ、和食部門)への『あく〜』豚のしゃぶしゃぶコースやグリル部門への『13品目の野菜たっぷり照り焼きハンバーグ』、気温上昇に合わせての『焼きカレーハンバーグ』などの投入と併せピュウフェ部門では、一部店舗において店内焼きたてパンの導入を行いメニュー強化に努めました。

この結果、当事業の売上高は1,639,616千円(前年同期比9.5%減)、セグメント利益は150,187千円(同24.6%増)となりました。

(f) その他

柿安グループの店舗を設けていない百貨店・量販店等において、柿安総合催事を実施いたしました。

この結果、その他の売上高は8,138千円(前年同期比57.6%減)、セグメント損失は1,030千円(前年同期は2,454千円のセグメント利益)となりました。

(2) 財政状態に関する分析

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ416,947千円増加し、18,464,382千円となりました。

主な要因は、現金及び預金335,795千円の減少がありましたが、売掛金258,945千円及び仕掛品202,458千円並びに新規出店等に伴う有形固定資産121,153千円の増加によるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ580,496千円増加し、5,494,168千円となりました。主な要因は、未払法人税等108,430千円の減少がありましたが、買掛金247,499千円及び賞与引当金190,037千円並びに未払金117,929千円の増加によるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ163,548千円減少し、12,970,213千円となりました。主な要因は、利益剰余金175,916千円の減少によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更等はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当第1四半期連結累計期間において、経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通しに重要な変更等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	46,300,800
計	46,300,800

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年5月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年7月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	12,446,700	12,446,700	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数100株
計	12,446,700	12,446,700	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成25年3月1日～ 平成25年5月31日	-	12,446,700	-	1,269,238	-	1,074,763

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年2月28日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年5月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 300	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 12,444,500	124,445	-
単元未満株式	普通株式 1,900	-	-
発行済株式総数	12,446,700	-	-
総株主の議決権	-	124,445	-

(注)「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が300株(議決権の数3個)含まれております。

【自己株式等】

平成25年5月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社柿安本店	三重県桑名市吉之丸8番地	300	-	300	0.0
計	-	300	-	300	0.0

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成25年3月1日から平成25年5月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年3月1日から平成25年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、東陽監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,174,370	6,838,574
受取手形及び売掛金	2,400,573	2,659,519
商品及び製品	208,484	288,190
仕掛品	122,794	325,253
原材料及び貯蔵品	181,365	191,627
繰延税金資産	204,392	291,061
その他	40,788	30,689
貸倒引当金	219	256
流動資産合計	10,332,550	10,624,659
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,203,231	3,279,307
土地	2,282,565	2,282,565
その他(純額)	620,210	665,288
有形固定資産合計	6,106,007	6,227,161
無形固定資産		
その他	118,024	105,718
無形固定資産合計	118,024	105,718
投資その他の資産		
投資有価証券	188,194	208,152
繰延税金資産	274,718	260,990
差入保証金	838,271	854,441
その他	189,668	183,258
投資その他の資産合計	1,490,852	1,506,843
固定資産合計	7,714,884	7,839,723
資産合計	18,047,434	18,464,382
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,151,762	1,399,261
未払金	395,259	513,189
未払法人税等	428,745	320,314
未払費用	877,336	989,045
賞与引当金	361,018	551,055
役員賞与引当金	37,950	9,480
その他	382,506	490,302
流動負債合計	3,634,578	4,272,649
固定負債		
長期借入金	702,500	660,000

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年5月31日)
退職給付引当金	13,048	15,663
資産除去債務	465,736	448,748
その他	97,807	97,106
固定負債合計	1,279,093	1,221,519
負債合計	4,913,672	5,494,168
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,269,238	1,269,238
資本剰余金	1,074,763	1,074,763
利益剰余金	10,793,104	10,617,187
自己株式	401	506
株主資本合計	13,136,704	12,960,683
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,941	9,530
その他の包括利益累計額合計	2,941	9,530
純資産合計	13,133,762	12,970,213
負債純資産合計	18,047,434	18,464,382

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)
売上高	9,983,049	9,850,530
売上原価	5,373,858	5,207,974
売上総利益	4,609,191	4,642,556
販売費及び一般管理費	4,050,578	4,147,174
営業利益	558,612	495,381
営業外収益		
受取利息	1,097	804
協賛金収入	1,153	609
その他	5,981	6,261
営業外収益合計	8,231	7,674
営業外費用		
支払利息	4,137	3,210
その他	2,954	1,972
営業外費用合計	7,091	5,182
経常利益	559,751	497,873
特別損失		
固定資産除売却損	15,590	1,106
減損損失	5,003	-
その他	270	-
特別損失合計	20,864	1,106
税金等調整前四半期純利益	538,887	496,766
法人税、住民税及び事業税	229,300	316,800
法人税等調整額	19,208	79,738
法人税等合計	248,508	237,061
少数株主損益調整前四半期純利益	290,379	259,705
四半期純利益	290,379	259,705

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	290,379	259,705
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	16,793	12,471
その他の包括利益合計	16,793	12,471
四半期包括利益	273,585	272,177
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	273,585	272,177
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【会計方針の変更等】

当第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日至平成25年5月31日)
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更) 当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成25年3月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。 この変更による当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)
減価償却費	150,485千円	146,697千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成24年3月1日至平成24年5月31日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年5月18日 定時株主総会	普通株式	435,622	35	平成24年2月29日	平成24年5月21日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成25年3月1日至平成25年5月31日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年5月30日 定時株主総会	普通株式	435,621	35	平成25年2月28日	平成25年5月31日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成24年3月1日至平成24年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	食品事業	和菓子 事業	レストラン 事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	3,470,155	3,114,364	424,197	1,142,776	1,812,368	9,963,862	19,187	9,983,049	-	9,983,049
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	286,243	3,806	74,942	32,067	4,038	401,097	-	401,097	401,097	-
計	3,756,398	3,118,171	499,140	1,174,844	1,816,406	10,364,960	19,187	10,384,147	401,097	9,983,049
セグメント利益 又は損失()	224,908	440,448	40,004	101,814	120,583	847,749	2,454	850,203	291,591	558,612

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等であります。

2. セグメント利益又は損失()の調整額 291,591千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 303,573千円及びその他調整額11,982千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「惣菜事業」セグメントにおいて、店舗資産(3店舗)の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては5,003千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間（自平成25年3月1日至平成25年5月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	食品事業	和菓子 事業	レストラン 事業	計				
売上高 外部顧客への 売上高	3,450,905	3,025,526	405,368	1,320,974	1,639,616	9,842,391	8,138	9,850,530	-	9,850,530
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	344,123	2,058	79,339	25,554	4,451	455,527	-	455,527	455,527	-
計	3,795,028	3,027,585	484,708	1,346,528	1,644,067	10,297,918	8,138	10,306,057	455,527	9,850,530
セグメント利益 又は損失()	256,704	261,557	23,939	142,073	150,187	786,582	1,030	785,552	290,170	495,381

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等であります。

2. セグメント利益又は損失()の調整額 290,170千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 302,032千円及びその他調整額11,861千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)
1株当たり四半期純利益金額	23円33銭	20円86銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	290,379	259,705
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	290,379	259,705
普通株式の期中平均株式数(千株)	12,446	12,446

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年7月4日

株式会社柿安本店
取締役会 御中

東陽監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 谷本 勝則 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 高津 清英 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社柿安本店の平成25年3月1日から平成26年2月28日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成25年3月1日から平成25年5月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年3月1日から平成25年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社柿安本店及び連結子会社の平成25年5月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲には、XBRLデータ自体は含まれておりません。